

山行名	尾瀬 至仏山(2228m) [群馬県] この時期のみ可能な百名山日帰り春山残雪期登山を楽しむ			
実施月日	H23年4月30日(土) [日帰り] マイカー2台利用			
天候/参加人員	天候：高曇り後小雨 レベル：★★ 参加人員(申込：10人、実行：9人)			
パースタッフ	CL/計画：、SL、会計：、救護：、写真： 氏名削除			
参加メンバー	M車(PRIUS)：(4人乗車) [男6/女3] S車(NOAH)：(5名乗車) 氏名削除			
費用	約6,200円 (交通費：¥5372+温泉入浴料金600+TTCカバ金¥228) 6,200円 内訳 マイク使用料(@10x500kmx2台)¥10,000、ドライブ謝礼(@5000x2台)¥10,000、高速道路代(休日割@1000x2x2台)¥4,000、ガソリン代(@150x500/8x2台)¥18,750、戸倉駐車料金(@1000x2台)¥2,000、戸倉-鳩待峠交通費(@900x2x2人)¥3,600/交通費計¥48,350、花咲の湯入浴料金(@600x9)¥5,400 カバ金¥2,050 集金(@6200x9)¥55,800-支出¥53,750=残金¥2,050 (カバ金会計に繰入)			
	行動時間	歩行時間	休憩時間	過去同時期実績：2度あり
ガイトブック上計画	5:40	4:40(無雪期) 3:40	— 2:00	過去実績値(歩行/行動時間) ・2005.5.5(日帰り) 3:40/5:25 ・2008.4.26(1泊行程) 5:13/6:27
実行(今回)	6:36	4:07	2:29	
実行コースタイム記録				
(M車の場合)	R412/中央道/圏央道(待ち合わせ)	関越道(車を戸倉に回送)	0:45	0:45 1:05 0:10
厚木愛甲==本厚木==相模湖IC==狭山PA==赤城高原SA==鳩待峠——(1866m ^北 ノク手前)——杵田代の雪原——至仏山頂上——				
3:45	3:52/3:55	4:50	5:14/5:30	6:30/6:43 7:54/9:12 10:00/10:05 10:50/11:00 12:05/12:15
0:34(昼食) 0:48(車回送待ち)(温泉/夕食) 関越道渋滞12km/30分(解散)				
至仏・小至仏の丸——樹林帯——鳩待峠==花咲の湯==沼田IC==駒寄PA==狭山PA==相模湖東IC==本厚木==厚木愛甲				
12:25/12:35	13:09/13:42	14:30/15:52	16:35/18:18	18:56 19:17/19:24 20:33/20:48 21:13 22:11 22:23
【車走行距離：505km/累積標高差(登り/下りとも)約650m/歩行距離9km/歩行数：約23,000歩】				
コースの概要、特記事項、反省事項等				
<p>今冬丹沢近郊の山は例年比べて積雪が少なく、TTCとして雪山らしい雪山山行が出来なかった。そこで、急遽尾瀬至仏山での日帰り春山スキーを計画した。今年の鳩待峠までの林道の開通は4/22(金)10:00AM、至仏山残雪期の登山禁止期間は5/7-6/30までと設定されたので、至仏山の春山登山可能な期間は4/23(土)~5/6(金)までの2週間のみ。この間であれば、マイク利用早朝出発で日帰り登山が可能だ。この時期の至仏山日帰り登山はTTCとして6年前に実施したことがある。夏道をはずれて北~東側の残雪約2mの雪斜面を歩けるので、登山道を歩く夏より短時間で至仏山頂上を往復出来る。安全登山の観点から、早朝発日帰り行程ではなく1泊行程でという声もあるが、天候による実施日変更のリスクを優先した。</p> <p>早朝、メンバーを各所でpick-upしながら、マイク2台に分乗して中央道相模湖ICから圏央道狭山PAで待ち合わせ、関越道も尾瀬戸倉へのアクセス道路も渋滞はなく8:00AM少々前に予定より25分早く鳩待峠に到着したのだが・・・峠下の駐車場は既に満車、峠広場の駐車場に1台分のスペースが空いたのでそこに車を留めたら、そこは乗合タクシーの駐車場だからNGだという。SLとSk氏がそれならば11km下がった戸倉の駐車場に車を留め、そこから乗合タクシーで鳩待峠まで戻ってくる方法しか選択肢はないという提案を受け、一も二もなくお願いすることにした。まさかこの時期のこの時間に駐車場が満車になるとは予想していなかった。戸倉の大駐車場に立ち寄って峠の状況を聞けばよかった。完全にCLの判断ミスと悔やむが後の祭りだ。峠の管理人によれば、今朝は8:00AM少し前に満車になったとのことで、我々は少しの差でダメだったようだ。乗合タクシーの所要時間は片道20-25分であるが、満車にならないと出発しないので、結局2人が車を置いて戻ってくるまで70分を要した。</p> <p>それでも計画より22分遅れて出発できた。到着時は青空であったが出発する頃は薄雲が広がり、至仏山の雪のドームと空の境界がはっきりしない。今年は例年より積雪が多いとのことであるが、鳩待峠上の樹林帯で2.5mの積雪量を示していた。我々が鳩待峠で待機している間に、中高年の登山パーティやスノーボードを背負った若者のパーティが続々と登って行き、小至仏の雪面をトランスしている登山者が黒い点で動いていく。眺望の良い杵田代の雪原で小休止した後、雪山の感触と360度の大展望を堪能しながら、至仏山山頂に向かった。視界が悪かった3年前の至仏山山行で頂上標識を探したが見つからなかったのは、一つ手前ノクの地帯までしか行かなかったためであることを前回参加したSLとSk氏が現場を確認して納得。</p> <p>至仏山頂上は北風が冷たく、長時間いられる状況ではない。頂上標識を囲んで記念写真を数枚撮ってすぐに下山にかかる。頂上稜線の東には、真っ白な雪原の先に燧ヶ岳が聳え、その左後方に会津駒、北に目を移すと平ヶ岳、荒沢岳、越後駒ヶ岳に中ノ岳、巻機山、谷川山塊、浅間山と続き、至近に武尊山の山塊が迫る。南東には皇海山とひととき高い日光白根山・・・と360度の大自然が広がる。頂上稜線では立ってられないほどの小雨交じりの強風が吹き出し、急いで樹林帯まで戻って少々遅い昼食をとった後、鳩待峠に戻った。SLとSk氏が乗合タクシーで戸倉に車を取りに行き戻ってくるまでの1時間余、留守番の7名はのんびり過ごさせてもらった。途中、花咲の湯に寄り道して温泉で疲れを癒し、夕食を摂ってから帰路についた。途中の沼田街道は至る所満開の桜並木でピンクに染め上がっていた。</p> <p>今回参加の9名中、5人が雪の至仏山は初めてで、雄大な雪山の景観に接し感動と満足感を味わったようだ。</p>				

